

足こぎ車椅子を使用した運動療法のリハビリ効果

た の しゅん べい いた がき よう すけ
田 野 俊 平¹⁾ 板 垣 陽 介²⁾
はら えい じ
原 栄 嗣³⁾

キーワード：足こぎ車椅子，運動療法，リハビリテーション効果

要 旨

足こぎ車椅子は下肢でペダルを漕いで進む福祉用具である。片麻痺などで歩行困難者の移動手段以外にもリハビリ効果について期待されている。今回，運動療法に足こぎ車椅子を処方し，その適応と効果について検証を行った。片麻痺，頸髄損傷，廃用症候群，整形疾患と幅広い疾患に適応があり，受傷の早期から慢性期にかけての運動療法に活用が可能であり，下肢の筋力値の向上，神経筋障害の改善，全身の耐久性・筋持久力の向上，訓練や活動意欲の動機づけとして有効であると考えられた。

はじめに

足こぎ車椅子はごく軽い下肢のペダリング運動を駆動源として漕いで進む福祉用具で，ハンドル，ブレーキ操作は片手で簡単に出来，片麻痺患者や脊髄損傷，骨折の術後，免荷期間，下肢の筋力低下が著しい廃用症候群などにより歩行困難な患者の移動手段としてのみではなく，リハビリ効果についても期待されている。

目 的

当院入院患者の運動療法として一定の条件と期

間で足こぎ車椅子を使用し，身体機能の改善について検証した。また，実際に使用した療法士や患者の意見を分析して適応とリハビリ効果について考察を行ったので報告する。

方 法

リハビリ処方の運動療法に足こぎ車椅子訓練を加え，自力で操作が可能で適応と判断した患者に処方した。条件と期間を定めて足こぎ車椅子訓練を実施し，訓練前後の評価を比較・検証する。

<対象>

2015年6月1日から2016年5月31日の間で，疾患を問わずに医師が足こぎ車椅子訓練のリハビリ処方をした患者で，自力でハンドル操作と走行が可能である患者。

Shunpei TANO et al.

- 1) 鹿島病院リハビリテーション部部长
 - 2) 同 リハビリテーション部理学療法士
 - 3) 同 事務部診療情報管理士
- 連絡先：〒690-0803 松江市鹿島町名分243-1
鹿島病院リハビリテーション部